おもすの森

発　行
大本山 本門寺根源
山務庁
富士宮市北山4965
電話　0544-58-1004

日蓮大聖人　御聖訓

おのづから
よこしまに降る雨はあらじ
風こそ夜の窓をうつらめ
『三沢御房御返事』

この御遺文は、文永十二年（一二七五）某月二十一日、日蓮大聖人から三沢御房に与えられた御手紙の一節です。

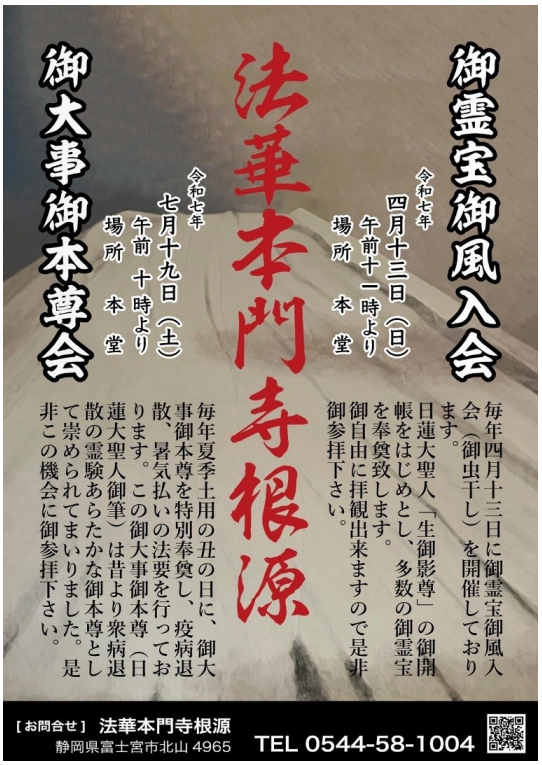
三沢御房とは、現在の富士宮市大鹿窪に住していた檀越で、三沢入道昌弘のことです。その邸宅跡が三沢寺です。同じく檀越の南條氏、松野氏と親しい間柄であったようです。

文永十二年といえば日蓮大聖人が身延山へ入られた翌年で、当時から駿河の檀越が日蓮大聖人から親しく教化を受けていたことが窺えます。

よこしまに降る雨はあらじ

ところで、この御遺文の説く教えは、生れながらの悪人はいない、ということです。夜の窓をうつ雨は風により斜めに降るのであって、天を発した時は真っ直ぐであったのです。これと同じように、人間も生れた時はみな仏心を持っていますが、様々な因や縁によって悪事を為すこともあり得るのです。

罪を憎んで人を憎まず、という言葉があります。世の中は多くの悪事で満ち溢れていますが、日蓮大聖人の信徒である我々は「一切衆生悉有仏性」（『涅槃経』）の教えを信じていきたいと思います。



御案内

御霊宝御風入会
日時　四月十三日(日)
　　午前十一時より
場所　本門寺根源　本堂
奉奠
・日蓮大聖人　御霊宝
・御開山日興上人御霊宝
・歴代上人御本尊
・その他　十数点

本化垂迹天照太神祭
日時　四月二十九日(火)　昭和の日
　　午前十時より
場所　本門寺　垂迹堂

◎多くの方にご参拝頂けますよう御案内申し上げます

節分追儺会（二月二日）

二月二日(日)午後二時より、当山の年中行事である節分追儺会を奉修致しました。

日曜ということもあり、当日は大勢の参加者で境内を埋め尽くしました。厄年を迎える老若男女十九名、及び年男・年女四名は、内陣において厄除け・除災の祈願と樒祓いを受け、その身を清めました。

当日は旭貫首猊下の御名代として鈴木春雄執事長が導師をつとめ、一年の無病息災をご祈念して頂くと共に、季節を分ける節目の時期である「節分」についての御法話をして下さいました。

御祈願の後、本堂と開山堂の回廊から、「福は内！」の掛け声と共に、福豆やお菓子が撒かれ、集まった二百人を超える参詣者らが手を伸ばし、今年の福を受け取っていました。また安全を考慮し、未就学児～低学年の児童のみを対象に、本堂前で同様の豆撒きを実施致しました。

豆撒きの後、福引抽選会が行われ、福袋を手にされた人は家族友人からも祝福され境内には笑顔が溢れ賑わいをみせました。スポーツ自転車や液晶テレビも景品として出され、当選番号が呼ばれた際にはひと際歓声が大きくなりました。

下段一覧表に協賛頂いた寺院・檀信徒の御芳名を掲載致しました。協賛頂きました各聖・各位に心より御礼申し上げます。

令和七年 節分追儺会 協賛者御芳名（敬称略）

塔中	養仙坊	
	西之坊	
	養運坊	
	蓮行坊	
	東陽坊	
	大乘坊	
	正林寺	
	本源寺	
	法華寺	
	本國寺	
	妙善寺	
	福泉寺	
	蓮華寺	
	常在寺	
	本禅寺	
	宗川寺	
	顕本寺	
北山白糸宮原		
富士市		
東京都		
神奈川県		
岡山県		
【一般】トガミ	樋口亨	

渡邉諒真君(9歳)

土橋奏太君(6歳)

特別賞当選は２件とも少年だったようです
節分会の良い思い出になるといいですね。

重要なお知らせ

再掲

平素より『おもすの森』をご愛読頂きまして誠にありがとうございます。『おもすの森』はこれまで毎月発行目標としてお届けさせて頂いておりましたが、郵便料金の値上げ並びに編集作業等の諸事情により、令和七年四月より、年四回の季刊号として発行致します。発行予定月は左記の通りです。

記

一、お盆号　（六月下旬）
二、御会式号　（十月初旬）
三、新年号　（十二月下旬）
四、春号　（三月初旬）

多部数購読の寺院様には改めて年間購読料のご案内を致します。

ご理解の程、何卒宜しくお願い申し上げます。

執事長　鈴木春雄

法華経に学ぶ　第三十一回

布教伝道部　浦野　弘正

雨華瑞～天から雨る四種の華

前回は、雨華瑞と地動瑞の説明を始めたところで終わりましたので、雨華瑞の詳しい様子から始めます。ここで降ってくる四種の華は、それぞれ天界に咲く花といわれていて、曼陀羅華は、色がよく、よい香りのする潔白な花で見たものを喜ばせるといいます。曼殊沙華は白色で柔軟で、これを見たものは自然と悪い行いから離れていくといいます。日本では、秋に咲く赤い彼岸花を指しますが、元々は天界から神さまが降らせる華です。このほかに摩訶曼陀羅華・摩訶曼殊沙華があり、合わせて四種類ですが、摩訶とはサンスクリット語の「mahāマハー」に漢字を当てた語で、「大きい」「偉大な」「勝れた」という意味がありますので、大小二種類の曼陀羅華と曼殊沙華が「雨のように」降ってきました。ですから、「ふる」に「雨」の字が使われて「雨華瑞」といいます。

地動瑞～大地六種に震動す

天から華の雨が降ってきたと同時に、大地が六種類の揺れ方をします。これが四つめの「地動瑞」で、形と声（音）のそれぞれに三つ、合わせて六つあります。形は「動」「起」「踊」の三種類、声は「震」「吼」「撃（または覚）」の三種類です。

形から見ていきます。「動」は一方に動く揺れをいい、「起」は下から突き上げるような揺れをいい、「踊」は湧き出るような揺れ、大地が隆起するような揺れをいいます。

次に声（音）の三種類です。「震」とは隠々として、つまり気持ちが悪くなるような音が続くこと、「吼」は、吼え声のような音が聞こえることで、震動の音が強烈なことをいい、「撃（または覚）」は、目の覚めるような大きな声をいいます。

この六種の震動にはそれぞれ、一か所が動く「動」、四方に動く「偏動」、八方に動く「等偏動」の三種類があるとされ、六かける三で十八種に数えることもあります。

法華経での地動瑞

日蓮大聖人は『瑞相御書』というお手紙の中で、「仏さまがどの教えを説く時にも六種動が起きるが、法華経の時は特に大きく長かった。しかも本門が説かれるための多宝涌出、地涌の菩薩が出現する時は、迹門のときよりも大きく、神力品の十神力が現ぜられた時は更に大瑞で、末法流通を示すものである」とご説明されています（『定本』八七三頁-八七五頁）。つまり、仏さまの教えが説かれるときに地動瑞はつきものであるけれど、法華経と他の教えの時ではその意味が全く違うから、その揺れも全く別物であった、と仰られます。

それは法華経が、お釈迦様の御一代のお説法の中で占める意味合いが全く異なるからです。さらに、①法華経が真実の教えであることを証明する多宝塔が出現したとき、②お釈迦様の本来のお弟子である地涌の菩薩さま方が出現したとき、③如来神力品において、お釈迦様が十の不思議な力を示されたときというのは、「法華経がお釈迦様の滅後、末法にこそ弘まるべき教えであるため」に、その揺れが殊更に顕著であった、と触れられています。

此土六瑞～⑤衆喜瑞

次に語られるのが五番めの「衆喜瑞」です。「衆が喜ぶ」の文字通り、多くの人々が喜び合う様を指す瑞相です。本文では「爾時会中～（中略）～一心観仏」（『開結』六〇頁、『岩波（上）』一八頁）が、この様子を語っています。

多くの人々が、といいましたが、「通序」でご紹介した天龍八部衆も含まれます。さらにここには「摩睺羅伽」「小王」「転輪聖王」というお名前も見えます。それぞれ神さま方や王さま方を指していますが、この方々も一心に合掌して喜び合い、お釈迦様をご覧になっています。（続く）

『本門要軌』を読む　第三十回

布教伝道部執事　阿部　和正

前回は南無妙法蓮華経＝御題目の行法としての位置付け（**末法応時の行法＝正行**）。及びその実体（**末法衆生の良薬＝本佛が説く総ての結要の法＝一念三千の悟り＝釈尊の因果の功徳**）について再確認しました。前回は字数の関係で説明出来ませんでしたが、「大覚世尊寿量品を演説し、然して後に十神力を示現して**四大菩薩に付属**したまふ。其の所属の法は何物ぞ。（略）所謂妙法蓮華経の五字、名体宗用教の五重玄也。」（『曾谷入道殿許御書』定本九〇二頁）、「日蓮は広略を捨てて肝要を好む。**所謂上行所伝**の妙法蓮華経の五字也。」（『法華取要抄』定本八一五頁・『妙行聖典』八二ー八三頁）。本佛より妙法蓮華経の五字を付属された**四大菩薩**・妙法蓮華経の五字を所伝する**上行菩薩**とは私達が渇仰する宗祖日蓮大聖人であります。これまでの整理をしますと、末法衆生の救済の為に、御題目の要法（大良薬）を付属する方＝**久遠の本佛釈尊**。御題目の要法を付属された方＝**宗祖日蓮大聖人**となります。私達末法に生きる衆生は、上行菩薩の応現である宗祖日蓮大聖人より所伝された南無妙法蓮華経の御題目を受持することに依り、久遠本佛からの救いを得ることが出来るのです。ですから回向文には宗祖を「本化上行垂迹応現・末法下種の唱導師・法主日蓮大聖人」（『本門要軌』五〇頁）と呼称しております。

これまで私達はお釈迦様・南無妙法蓮華経・日蓮大聖人をともすれば、個別に崇めて信心してまいりましたが、経説や宗祖の教示に従えば、一体として**本佛→宗祖→御題目**を一連して信仰することが明示されております。さらには此の一連の関係性を説かれた教えが**法華経**という経典になります。本佛や宗祖、法華経も御題目信仰には欠かすことの出来ない存在であることを知るのです。ですから本宗の宗憲の第一条には「伝統」として「日蓮宗は、**久遠実成本師釈迦牟尼仏**から、その本懐である**法華経**を、末法に弘通することを付嘱された、**本化上行菩薩の応現日蓮聖人**が開創唱導した真実の仏法を開顕する仏教正統の宗団である。」と本宗に於ける**佛法僧の三宝**が明示されています。又第二条には「宗旨」として「日蓮宗は、**本門の本尊**を帰依の正境とし、**本門の題目**を信行の要法とし、**本門の戒壇**を依止の戒法とする**三大秘法を宗旨**として法華経を行じ且つあらゆる思想を開顕して妙法に帰せしめ、もって即身成仏、仏国土顕現を理想とする。」と本宗の宗旨を、南無妙法蓮華経（一大秘法）を行法として開出した三大秘法と定めております。本宗に於ける信仰の総ては、南無妙法蓮華経の御題目に帰結するものです。まさに讃嘆の御義口伝の文「**品品の初にも五字を題し、終にも五字を以て結し、前後中間、南無妙法蓮華経の七字也。末法弘通の要法は唯此の一段に之有る也。此等の心を失て、要法に結ばずんば、末法弘通の法には不足の者也。剰え日蓮が本意を失う可し。**（略）**今又以て此の如し。父とは日蓮也。子とは日蓮が弟子旦那也。世界とは日本国也。益とは受持成仏也。法とは上行所伝の題目也。**」（『本門要軌』七ー九頁）の文は、本宗の御題目信仰の要点を説いた格言であります。

次に南無妙法蓮華経＝御題目の唱え方ですが、當門下では古来より「ナンミョウホウレンゲキョウ」と唱え、「ナンー」と力を入れ「ミョウホウレンゲーキョウ」と至心専念に腹の底から声をしぼり出すように唱えます。木鉦や太鼓を合せて打つ際は、「南無」はあえて打たず「●妙●法●蓮●華●経」と打つのが古法です。これは「妙法蓮華経」（要法＝大良薬）を「南無」（受持＝服す）という意で、本佛が調合した色香美味の大良薬を宗祖に付嘱され、私達衆生は宗祖より所伝した大良薬を服し醒悟する。又は本門の本尊に帰依し、本門の戒壇に安住し、本門の題目を受持することを至心に唱念するものです。（続く）

第六九三回忌 日興上人会(二月七日)

二月七日午前十一時より、開山堂に於いて、第六百九十三回忌日興上人会が営まれました。

日興上人は日蓮大聖人御入滅後の第七回忌供養を終え、大聖人の御遺命である本門戒壇可建の地として本門寺根源永仁六(一二九八)年を建立。更に重須談所を設けて弟子・檀越を教化し、駿河の国を中心とした教線拡大に邁進され、御年八十八歳(正慶二年二月七日)当山にて御遷化されました。

当日は末寺教師・日興上人を門祖とする興統法縁寺院・檀信徒と共に厳寒の中、一心に御題目をお唱えし、その御遺徳を偲び報恩感謝を捧げました。

又、本年は

七　世　日国上人　第四九〇回忌
一八世　日英上人　第二七〇回忌
一九世　日彦上人　第二四〇回忌
三七世　日忠上人　第一一〇回忌
三八世　日啓上人　第一三〇回忌
四八世　日諄上人　第一七回忌

御歴代の年回忌に当たり、数多くの卒塔婆を建立され法味が言上されました。

最後に、鈴木執事長より参列頂いた僧侶・檀信徒に対して、七年後に控える御開山日興上人七百遠忌に向けて一人でも多くの方々に本門戒壇の霊地である此の本門寺根源に心を寄せて頂き、護持護山の遠忌事業に御丹誠頂きたいと挨拶された。

興統法縁会 遠忌事業奉賛会 発足式

二月七日、日興上人会に先駆けて午前十時より興統法縁会による、白蓮阿闍梨日興上人第七百遠忌事業奉賛会の発足式(於 日興上人御廟所)が執り行われました。

これは来たる令和十四年二月七日、第七百遠忌の御正当年という大切な節目を迎えるに当たり、旭法縁会長発願の下、同会の事業として「日興上人廟拝殿建立」の施主となり、法縁会各聖が力を合わせ遠忌事業の推進を御誓い申し上げました。

当日全国よりお集り頂いた各聖に本山を代表として、鈴木執事長より、「新設拝殿により雨風を気にすることなく、日興上人の遺徳に報恩感謝し心行くまで御題目を捧げられる聖域となることを願っています」と感謝のご挨拶をされました。

大蔵経の御寄進

此度、宇佐美仏教会・曽根顕祐会長(伊東市行蓮寺住職)より、大蔵経(一切経)ご寄進の申し出があり、此度当山御霊宝として格護されることとなりました。

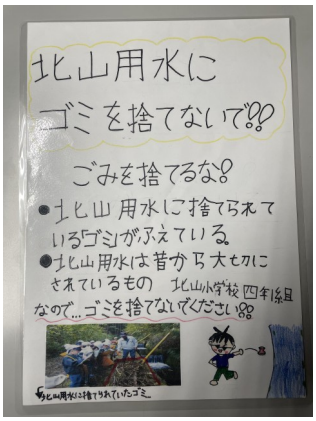
尚、四月の御霊宝御風入会にて奉奠致しますので、是非ご拝観下さい。

此度もご寄進下さり誠にありがとうございました。

大蔵経（於 行蓮寺）

本門寺堀を綺麗に！

北山小四年生が社会科「北山」の授業の一環で本門寺堀を学んだ際、現地ではお掘りにゴミが捨てられているのに気が付き、「北山用水にゴミを捨てない」を訴えるポスターやリーフレットを手作りしてくれました。方丈玄関に掲示しますので、私達も声を掛け合い、本門寺堀の美化に努めましょう。



管理委員や発電所からも話を聞き、本門寺堀の大切さを学んだようです。

教学研修会開催

二月二十日（木）、日蓮大聖人第七百五十遠忌・日興上人第七百遠忌慶讃事業の一環として、末寺・興統法縁会・重須会教師向けの教学研修会を開催致しました。

本間俊文先生（立正大学仏教学部准教授）「日興上人入門」第八講【『弟子分帳』にみる日興上人とその門弟（一）】を主題としてこの度もご講義を頂きました。

又、二月二十八日（金）に三輪是法先生（立正大学仏教学部教授）にご講義頂きました。前回に引き続き、第八講『法華経の行者日蓮（姉崎正治著）』を解説頂きました。

令和七年度は第九講から第十二講を、それぞれ予定しております。日程が決まり次第ご通知しますので、一人でも多くの教師の方に、ご聴講頂けますよう御案内を申し上げます。

清掃奉仕　御礼

三月十四日午前九時より恒例となりました、春彼岸前の清掃作業を檀信徒の奉仕により行いました。今回は山林を中心とした清掃となり、杉の枝・幹等を運び出す内容となりました。多くの皆様に御奉仕頂きまして、感謝を申し上げます。

奉仕者御芳名

敬称略　順不同

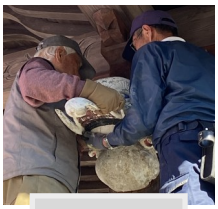
太田川一郎　養仙坊
石川達三　養仙坊
石川茂樹　養仙坊
太田川久　養仙坊
渡邊一雄　養仙坊
小林國通　養仙坊
渡辺豊　養仙坊
渡辺義夫　養仙坊
宮島三男　養仙坊
志邨和利　養仙坊
鈴木崇明　西之坊
石川剛浩　西之坊
石川朋子　西之坊
後藤幸夫　西之坊
藤田欣大　西之坊
藤田文代　西之坊
渡邉和正　養運坊
藤田淳　養運坊
松原和代　養運坊
野村恵利　養運坊
荻貴世孝　養運坊
遠藤英彦　蓮行坊
斉藤美英　蓮行坊
斉藤繁美　蓮行坊
渡辺京子　蓮行坊
石川昌之　東陽坊
加藤貴之　東陽坊
富永政則　東陽坊
佐野昌彦　本光寺
以上　二十九名

彫刻の修繕（開山堂）

昨年末、開山堂の向拝柱左側の獏（彫刻）が腐食の為、落下し鼻を欠損しました。本年の開山会に間に合うよう修理依頼をし、今後落下しないようにボルト止めをして修復を完了しました。

更に右側獏も腐食の為、同様に落下防止の処置を施しました。このように諸堂もあちらこちら老朽化が進み営繕修理する事に四苦八苦している所です。

落下した獏



取付中の獏

修繕された獏

新寂回向の御報告

本堂におきまして　各御霊位の御回向を申し上げました
ご冥福をお祈り申し上げます

蓮妙寺　故　飯嶌　ハル　様
蓮華寺　故　馬場　聲江　様
蓮華寺　故　﨑山　輝　様
蓮華寺　故　幡野　甲子　様
蓮華寺　故　大塚　恵美子様
蓮華寺　故　増山　正直　様
蓮華寺　故　芦森　芳江　様
蓮華寺　故　坪田　作太郎様
蓮華寺　故　大倉　辰昭　様
養運坊　故　佐野　照男　様
養運坊　故　井出　米重　様
養運坊　故　藤巻　弘　様
養運坊　故　渡井　堯　様
養運坊　故　荻　公子　様
養運坊　故　戸塚　美智子様
西之坊　故　小林　香　様
久成寺　故　中澤　巖　様
久成寺　故　平川　義明　様
二月二十四日迄　申請順

護山志納金の報告

令和七年二月志納

埼玉県　本法寺　様
塔中　大乗坊　様

護山志納金をお納め頂き厚く御礼申し上げます

本門寺の主な予定

令和七年三月
二十八日　重須婦人会清掃奉仕

令和七年四月
十一日　重須婦人会清掃奉仕
十三日　御霊宝御風入会
二十五日　重須婦人会清掃奉仕
二十九日　本化垂迹祭

令和七年五月
二十九日　重須会　門中参拝

令和七年六月
十七日　興統法縁会島根大会

丹精者御芳名

おもすの森　賛助金
伝　法(株)角替石材店様
北　山　佐野　百々代様

献花
北　山　星谷とみ子　様

諸堂・境内清掃・作業奉仕
本門寺内　重須婦人会　様
塔　中　寺庭婦人　様
本門寺内　石川由緒家　様
静　岡　市　紺文シルク　様
謹んで御礼申し上げます